

「出会い」と「天与の恵み」

高橋五郎

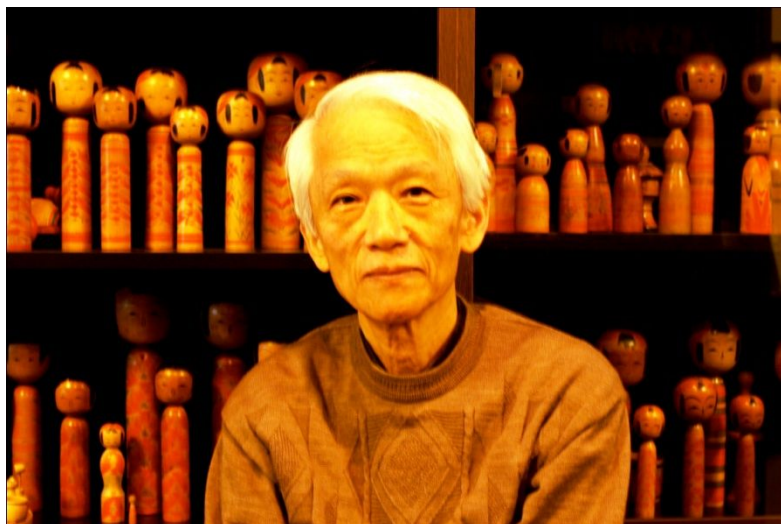
私がこけしに関心を持つようになった当初の頃、天江富弥、三原良吉、菅野新一、西田峯吉といったこけしの研究の第一人者と出会い、知遇を得て多くのことを学びました。

大先達の方々から度々「こけしの研究は進んでいるようでも謎めいてわからないことが多い。自分たちの調査したことも、今となっては誤っていることが沢山ある。五郎さんは若いのだから自分の足でしっかり調査してみなさい。」と助言を頂戴しました。こけしの研究調査など思いもよらないことであったが、元来知りたがり屋の性分があり、つい足を踏み入れてしまいました。調査を重ねるほど工人諸氏やこけし産地周辺の数多くの古老たちに出会い、貴重な話を聞くことができましたる中にはこけし界の通説と異なる話を耳にして驚きもしました。

こうした調査の中で発見した一つが、「岩松直助文書」でした。この内容は正にこけし界のロゼッタ・ストーンのようなもので、謎とされた江戸末期のこけし誕生期に近い頃の諸々のことを一気に解明することになったのです。先人の方々が求めども目にすることがなかった古文書の発見は、これが真実かと頭が真っ白になり、声も出ないほどの感激でした。この文書の解明にも多くの人に出会い、教えを受けました。

そして近年、入手して話題となったのが、古い肘折こけしの出現です。これこそ先人の方々が、長いこと労を費やしての探究にもかかわらず追求の及ばなかった肘折こけしの始祖、井上(柿崎)藤五郎のこけしでした。「岩松直助文書」や井上藤五郎の発見などは私一人の力によるものではなく、数多くの出会いによるご協力の賜、そして偶然の天与の恵みによるものと実感しています。この二つの発見から、これまでこけしの歴史上、解明困難とされたこけしの発生期の実態に迫り、こけしの研究が大きく発展していくことを願っております。

平成22年9月



【高橋五郎氏プロフィール】

音楽家・こけし研究家 仙台市在住

音楽家としてチルコロ・マンドリニスチコ・フローラを主宰。

演奏活動から、後進の指導と多忙の日々を送る中、東北地方の郷土玩具の蒐集と研究にも長年力をそそがれてこられました。

御自身の貴重なコレクションの公開、数多くのこけし研究書の刊行、こけしコンクールの審査、等々、数多くの活動を通してこけしの啓蒙、発展に尽されています。